



- かんがえる子 (知)
- おもいやりのある子 (徳)
- たくましい子 (体)

運動会 ありがとうございます

9月28日(土)に運動会が行われました。当日は天気にも恵まれ、最高のグラウンドコンディションの中で

子ども達は練習してきた成果を発揮し、自分に負けることなく最後まであきらめずに競技することができました。また、高学年は係活動に全力で取り組むことができました。さらに、応援団を中心とした各組の応援も見ごたえがありました。転んでも立ち上がり諦めずに最後まで走る子、勝ってもおごることなく相手をたたえる選手の姿、負けて陣地に戻ってくる仲間を温かく迎える応援団の姿、どれをとっても素晴らしい姿でした。最後は勝敗が付きましたが、どちらの組も「仲間がいるから競技ができる、相手がいるから勝負ができる」の言葉通り、仲間も相手も大切に思う心もちながら競技することができました。

当日は保護者の皆様だけではなく、ご来賓の皆様や地域の皆様にもご声援をいただきながら競技することができました。大変ありがとうございました。

保護者の皆様にはアンケートにもご協力いただきました。ありがとうございました。寄せられましたご意見をいくつか紹介いたします。ご意見をもとに来年度の運動会の内容について検討していきたいと思ひます。

【いただいたご意見】

1 子ども達の姿について

- 転んでも最後まで諦めず競技をする姿が立派だった。
- 人数が少ないのに、返事の大きさ・反応の良さ・立派な応援がすばらしかった。
- 一人ひとりが自分のやるべき事を一生懸命にやっていた。

2 競技について

- 各競技の中にダンスの場面がありとても良かった。
- 高学年のひっぱれヤングマン(綱引き)が見ごたえがあった。
- 低学年に親子競技があつてとてもよかった。
- 全校でのダンスがなかったのが残念だった。
- 高学年に親子競技があるとよかった。

3 時間等について

- ちょっと物足りないという思いと、午前開催ならこのくらいがちょうどよいという思いがある。
- 内容的にはあっさりだったがそれがよかった。
- 競技の時間も休憩時間もちょうどよかった。
- 午後の部があつてもよかった。

4 その他

- 観戦している保護者や中学生、地域の方々のマナーがとても良かった。
- 小学校・中学校合同の運動会や地域参加型の運動会もよいと思つた。



音楽鑑賞会を実施しました

10月7日（月）に、音楽鑑賞会を実施しました。鈴木牧子カルテットの皆さんにご来校いただきました。ジャズピアニストの鈴木牧子様、ウッドベース奏者の下田様、ドラム奏者の菊池様、トランペット奏者の鎌田様の4名によるジャズ演奏でした。

「小学校の子ども達にジャズは難しいのでは？」と思ったのですが、音楽の力、そして子ども達の感受性は素晴らしいものです。手拍子をしたりリズムに乗って体を動かしたりする場面もあれば、手拍子をやめて聴き入る場面もありで、一人ひとりが曲想を感じとり思い思いのスタイルで聴き入っていました。

後半は子ども達が演奏に加わりました。3・4年生は「スーパーカリフラジリスティックエクスペリアードーシャス」をリコーダーでコラボレーション演奏しました。その後持参していただいた打楽器を子ども達がもち、みんなでセッションを楽しみました。

あっという間のひと時でしたが、子ども達は生の演奏を堪能しました。



2年 陸上自衛隊岩手駐屯地見学学習

10月8日（火）に2年生が陸上自衛隊岩手駐屯地の見学学習をしました。これは、自分達が住んでいる一本木地区にどのような施設があるのかを知り、そこで働いている方々が普段どんな仕事をしているのかを学ぶことを目的としています。

最初に資料館を見学しました。展示品を通して自衛隊の方々がどのような仕事をしているのかを学ぶことができました。大砲の砲弾が展示してありました。何人かの子ども達が持ち上げることができるか挑戦しました。どの子も砲弾が少し動く程度でした。砲弾の重さに子ども達は驚いていました。実はこの砲弾は43kgあるとのこと。隊員の方は（女性隊員も）一人で持ち上げることができるそうです。

次にけがをした時の応急手当の仕方について教わりました。布を使った手の固定や器具を使った止血を見せていただきました。そして普段の生活の中でよくある擦り傷や切り傷の処置を教わり、傷口にハンカチをあてて止血し自分で傷口に絆創膏を貼る体験をしました。

さらに自衛隊で大切にしている所作を教えてくださいました。岩手駐屯地には1400人の隊員の方が勤務しているそうです。隊員の皆さん全員が心を一つにするために、「敬礼・気を付け・休め」の所作を大切にしていることを教えてくださいました。

最後に、駐屯地に勤務している方々と一緒に隊員食堂で昼食をとりました。メニューは手捏ねハンバーグでした。子ども達はゆっくりと味わいながら食べましたが、隊員の方々は10～15分で食事を終えていました。常に気を抜くことができない仕事をしていることを感じました。

